

S. M. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

新しいことを始めてみたいと思ったのがきっかけです。大学入学後、授業や京都での生活を通して、新しいことを学んだり始めたりすることの楽しさや面白さを感じるようになりました。特に刺激を受けたのが 1 回生の春休みに行った 1 か月のイギリス留学です。そこでは、語学だけでなく異国の文化や習慣を学ぶことができ、毎日充実した生活を送ることが出来ました。イギリス留学後、また別の場所で新しいことを学びたいという気持ちが強くなり、2 回生の春頃から協定留学を目指し始めました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

協定留学には IELTS か TOEFL どちらかの基準点を満たす必要があったので、私は Speaking が面接形式の IELTS を選びました。IELTS がどういったテストなのか全く知識が無かったので、勉強を始める前に IELTS の形式や傾向、どのような手順で問題を解いていくのかを学びました。その際とても役に立ったのが国際課主催の IELTS 対策講座です。問題を解くだけでなく、講師の方に IELTS について詳しく教えて頂くことができます。その後は協定留学選考までに合計で 2 回テストを受けました。1 回目は自分の今のレベルを知る為に、2 回目はしっかりと準備をして基準点を満たす為に受けました。IELTS の勉強をするにあたって、私は自分 1 人で勉強するだけでなく、TOEFL CAMP にも参加しました。合宿では英語力が向上したことは勿論、高い目標を持った仲間に出会いモチベーションを上げることが出来ました。自主勉強では、まず書店で自分が分かりやすいと思った対策本を買い、新しい知識を取り入れながら勉強をしました。そしてその後は過去問を解き、答え合わせをするという流れを何度も繰り返しました。私は、周りの人からのアドバイスを参考にしながら、自己流の勉強法を見つけ、それを何度も繰り返すことが大切だと思います。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学決定後は、国際課の方が準備してくださった出発までの計画に沿って、ビザ申請や予防接種、航空券の手配などを行いました。私は留学決定から出発まで時間が長くあり、留学先大学から入学許可書などの書類も早く送られてきたので、ゆっくりと準備することができました。準備をする中で一番時間が掛かったのがビザ申請と予防接種です。ビザ申請は資料作成から面接まで全て自分で行いました。問題なくビザを取得することは出来ましたが、資料作成の際、入力項目が多く分からない点もあり、1 人でするのはとても大変で不安だったので、代理で行ってくれる業者の方に依頼するのも良いと思います。予防接種に関しては、

要求されるワクチンの数が多く、時間もお金もかかります。ワクチンには、必須のものと任意のものがあります。摂取するワクチンの種類や日程は、病院の先生と留学期間や留学場所を考慮しながら話し合って決めました。1 日にいくつものワクチンを接種することもありましたが、病院の方がワクチンの説明やどうして接種しないといけないかなどを丁寧に教えて下さったので、安心して受けることが出来ました。あるワクチンは 3 回受ける必要があったのですが、3 回目がどうしても間に合わず、現地で受けることにしました。その他の事で、準備を進めていく中で分からないことがあった際は、留学先大学の担当者と直接連絡を取り質問しました。メールをするとすぐに対応して下さいとても助かりました。

④ 現地到着後

到着後は留学先の国際課の担当者がピッツバーグ空港まで迎えに来てくださり、車で大学まで行きました。空港から大学までは 30～40 分程度だったと思います。大学到着後は、学生証の配布など事務的な手続きがいくつかあり、その後自分の住む寮に行きました。オリエンテーションまで 2 日間あったので、荷解きをしたり携帯の SIM カードを購入しにいったりしました。オリエンテーションでは、色々な説明や書類記入があった後、プレイスメントテストがありました。このテストで語学研修期間のクラスが決められました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

大学内に語学学校がありました。ESL（語学研修）の教室は地下にあり、冷暖房が完備されているとても綺麗な建物でした。語学研修期間は、留学生が 3 つの少人数クラスに分けられて授業が行われました。クラスによって雰囲気や年齢層も異なります。私のクラスは、日本人とサウジアラビア人の 2 か国からの留学生がいて、雰囲気はとてもアットホームでした。授業中は、分からないことがあればすぐに質問が出来たので、留学が始まってすぐだった私にとってはとても有難い環境でした。また、教室のすぐ近くに国際課や ESL の先生方の部屋のオフィスがあったので、何かあればすぐに相談しに行くことができとても便利でした。

◆ 授業内容、課題、試験

語学研修期間の 1 週間の流れは、月～木曜日は 2 時間半の授業を午前と午後で 2 つ受け、金曜日はピッツバーグの有名な美術館に行ったり、イベントに参加したりするフィールドトリップを行っていました。授業はプレイスメントテストによって決められたレベルのものを受けるので、自分で履修するクラスを選ぶことは出来ません。私は Writing、Reading、Communication（Speaking+Listening）、US Culture（ピッツバーグについて学ぶ授業）を履修していました。授業では、先生の話を聞く事よりも、グループディスカッションやプレゼン発表などの方が多かったです。受け身な授業ではなく、学生が発信する意見や質問が

ベースになって授業が進んでいくので、初めはその授業スタイルに驚きましたが、周りの留学生に刺激を受けながら頑張ることが出来ました。試験に関しては、Writing、Reading、Communication は英語力がどれだけ上がったかが試される試験でした。テスト形式は様々で、紙の試験や面接など先生によって異なります。Reading の試験では、レストランに行きそのメニューに何が書かれているかを読み解くという変わったもので、とても驚きました。US Culture の試験は授業で学んだことがテストに出ました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

語学研修期間と正規科目履修期間で施設や環境が大きく変わることはありません。建物は語学研修期間でも利用した建物やその周辺の建物で行われます。カフェや図書館が近くにあるので、とても便利が良いです。ART 系やスポーツ系の授業になると、そこから少し離れた建物で授業をすることになります。ですが、キャンパス自体が小さいので歩いて 5～10 分程度です。正規科目履修期間はカフェとダイニングホールが遅くまで開いており、課題や予習をする際に利用することができ、とても便利でした。

◆ 履修科目

・ ELI104 Academic Composition

留学生を対象とする Writing の授業です。元々 Writing に苦手意識があったので履修を決めました。授業では Writing 力を向上させるだけでなく、政治や文化、宗教など広い範囲のトピックに対する自分の考えを表現することが求められました。また、1 セメスターで、二人一組のグループでテーマを決め一つの論文を完成させました。10 枚以上の論文を書くのは初めてだったので大変でしたが、完成した後の達成感はずごく、大きな自信にもなりました。

・ ELP112 American Literature

アメリカに留学したからには、何かアメリカに関することを学びたいと思い、履修をしました。授業では古いものから現代のものまで幅広い文学に触れることが出来ました。また、物語の背景にあるアメリカの文化や考えをグループディスカッションで話し合いながら読み解いていきました。

・ WGS101 Introduction to Women's and Gender Studies

性差別や人種差別に興味があり履修しました。この授業は週ごとに変わるテーマの記事や本を予習として読んで行き、授業内ではそれに対する自分の考えを自由に発言していくというスタイルでした。授業の内容にはすごく興味がありましたが、予習や課題の量が多く、内容も難しかったので、初めはとても大変でした。ですが、そのことを先生に相談すると、

週に 1 回授業外でミーティングすることを提案して下さり、そこからは先生のサポートもあり授業への理解を深めることが出来ました。また、先生が私の日本でのジェンダーに関する経験を発表する時間を設けてくださり、緊張しましたがとてもいい経験が出来ました。

・ ART152 Painting I

アクリル絵の具でキャンバスに絵を描く授業です。セメスターを通して三つの作品を完成させました。授業では絵を描くだけでなく、毎回先生と一対一で数分の話し合いをします。その中で、自分のアイデアを話したり先生からのアドバイスをもらったりします。一つの作品が完成すると、クラスメイトの前で自分の作品について簡単な説明をし、コメントをもらいます。

・ PED158 Scuba

アメリカだからこそできる貴重な体験だと思い履修しました。授業は少人数で、クラスメイトも先生もフレンドリーでアットホームなクラスでした。授業では、教室で基本の知識などを学んだり、実際にプールでダイビングをしたりしました。プール授業は、基本水の中で先生やクラスメイトと手話を使ってやり取りをします。水中で授業を受けるのは初めての経験だったので、不思議な気持ちでした。

◆ 授業、レポート、定期試験

どの授業も 15～30 人程度の少人数クラスです。講義を聞くだけの受け身の姿勢で授業を受ける学生より、自分の意見や質問を積極的に発言する学生が多いです。レポート課題は思っていたよりかなり多かったです。1 週間に 3 つのレポートが重なることもありました。期限に間に合うように、課題は早めに始めるようにし、提出前には構成や文法ミスがないかなど先生に確認してもらっていました。定期試験は授業によって形式は異なりましたが、どの授業もしっかりと授業を理解していないと解けません。授業は毎回出席し、試験前には図書館などで夜遅くまで勉強しました。いつも、予習や復習、試験などは絶対に手を抜かず、自分が今出せる力を最大限に出せるように努力していました。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

留学先大学の国際課が主催する Conversation Partner Program という制度を利用していました。私は明るく友達の多いパートナーとペアでした。定期的にご飯に誘ってくれたり、自分の友達を紹介してくれたりしました。クラブやボランティア活動は特にしていませんでしたが、大学で行われるイベントには参加していました。定期的に行われているので、ホームページからチェックして行くと良いと思います。また、部活の試合が大学内で行われることが多く、時間がある時は観に行っていました。アメリカならではの応援の仕方や雰囲気味わえ、とてもいい経験になりました。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

留学期間はずっとキャンパス内にある寮に住んでいました。留学前に、寮にするかホームステイにするかを決め、寮を選んだ場合はその後、Chatham 大学側が部屋のタイプやルームメイトを決め指定された場所で住むことになります。私は語学研修期間と正規科目履修期間とで別々の寮に住み、ルームメイトや部屋のタイプも変わりました。どちらの寮も授業を受ける建物まで 5～10 分程度離れた場所にありました。設備は寮によって異なります。バス、トイレ、キッチン、洗濯機は共同ですが、大部屋になるとバス、トイレが付いていることもあります。寮はクーラーの付いていない部屋がほとんどで、夏はとても暑く大変でした。冬は自動で付く備え付けのヒーターがあったので寒さに困る事はありませんでした。寮の雰囲気は語学研修期間と正規科目履修期間で大きく異なります。語学研修期間は現地の学生にとっては夏休み期間でほとんどの学生が実家に帰っているのです、寮に住んでいる学生は少ないです。私はアメリカ人 2 人、日本人が 1 人いる 4 人部屋でした。みんなとても優しくフレンドリーなルームメイトで、楽しく部屋で過ごすことが出来ました。ですが、ラウンジやキッチンなど部屋の外でのコミュニケーションは住んでいる学生が少ない分あまりなかったのもう一度選びなおすのであれば、語学研修期間はホームステイにしていると思います。逆に、正規科目履修期間は学生が多くて、いつも賑やかな雰囲気でした。ルームメイトは現地の学生の 1 年生で、何度も一緒にパーティーをしたり遊びに行ったりして、とても仲良くなりました。また正規科目履修期間は寮によってはイベントも開催されるので、寮内での人との繋がりたくさんあると思います。

⑨ 長期休暇の過ごし方

主に旅行をしていました。Chatham 大学は東海岸の有名な観光地にバスで行くことが出来るので、何度も旅行に行きました。私は、ニューヨーク、マイアミ、ワシントン D.C.、トロントへ行きました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

特にしていませんでした。授業の課題や予習が多く、就職活動をする余裕がなかったのが正直なところでした。なので私は、授業や現地でのコミュニケーションなど、目の前にある課題に集中するよう心掛けていました。就職活動をする代わりに、留学中は毎日何があったか、その時どんな気持ちだったかなど、大きなことでも小さなことでも日記をつけるようにしていました。これは、キャリア支援課の方のアドバイスで、後々日記を読み返すことで、自分の成長や乗り越えた事が明確に分かり、就職活動に役立つそうです。今は書いた日記をもとに、自己分析などを行っています。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

ルームメイトや友人と過ごしたことが一番の思い出です。日本から来た留学生の私でも特別扱いすることなく、ありのままで接してくれました。ルームメイトとは夜寝る前に 1 日何があったか話したり、週末はお互いの友人を呼んでパーティーをしたりしました。

Thanksgiving の時は家に招待してくれ、ディナーを一緒に食べました。いつも私のことを気遣ってくれ、困ったときは助けてくれてとても心強かったです。また日本に興味を持ってきて、留学に行きたいと話してくれました。それが本当に嬉しかったです。友人とはレストランに行ったり、部屋で一緒に映画を見たりして過ごしていました。たわいもない話をするのでも本当に楽しくて、いつも笑いが絶えなかったのを覚えています。少しの時間でも、小さなことでも、私にとっては全て大切な一生の思い出です。そう思えるのはルームメイトや友人が本当に素敵な人達だったからだと思います。出会えて本当に良かったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学中はこれまでにないくらい悩み、何度も辛い思いもしました。一つの壁を乗り越えたら、また別の壁にぶつかる日々で、心の中にはいつも色んな葛藤がありました。中でも一番苦労したのは、感情コントロールです。慣れない環境の中で様々な事が起こるので、一つ一つに一喜一憂する毎日でした。留学が始まってすぐの頃は小さなことでも悩んで落ち込んでしまい、そんな自分に嫌気がしていました。また、気分が下がっているときは、日本で就職活動をする友人や、他の国に留学した友人の生活が輝いて見えて自信を喪失してしまう事も何度もありました。そこで私は、悩むのが悪い事だと思うのをやめ、悩むときは思いっきり悩むようにし、次の日は今日よりも良い日にしようと心掛けるようにしました。そして、自分は自分だから他人と比べる事もやめました。そうすると、感情コントロールも上手くできるようになり、悩むことはあってもそれが何日も長く続くことはなくなりました。留学前は、辛い事があっても他の事でその辛さを紛らわすことが出来ましたが、留学中は限られた環境であったため、目を逸らさずにはいられませんでした。なので、壁にぶつかった時や辛い時は、今の状況をどうにか変えようと考え自分なりの解決策を探し、それを行動に移すようにしていました。これは、私にとって留学前では考えられなかったことで、辛い経験があったからこそ出来るようになったことだと思います。なので、辛かったけどそれが決して無駄な時間だったとは思っていません。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

良い意味でも悪い意味でも、アメリカ人の自由さには驚きました。現地の学生は、やってはいけないと言われたこと以外はやっても良いという考えの人が多かったように思います。

当たり前にとらわれていた私にとっては衝撃的で、とても幸せな考え方だと思いました。ですが、それと同時に日本人の私には理解しがたい事もあり、疲れたりすることもありました。また、トイレの汚さにも驚きました。大学のトイレは毎日清掃されているので、そこまで汚いと感じることはありませんでしたが、お店の中にあるトイレは本当に汚かったです。また、扉を閉めても少しだけ隙間が開いているので、はじめはトイレを利用するのに抵抗がありました。帰国後、日本のトイレを使用した時、清潔さだけでなく、便座の温かさやトイレットペーパーの柔らかさなど一つ一つに驚き、日本は本当に恵まれた国なのだと改めて実感しました。異国の地での生活には文化や習慣の違いは付きものだと思うので、留学中は違いに対して否定的な目で見ず、そういう国なのだと出来る限り受け入れるように心がけていました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、小規模な大学で友達が作りやすいところです。キャンパス自体が小さいので、1 日に何度も同じ学生に出会うこともあります。学生だけでなく先生やキャンパス内で働く人達みんながフレンドリーで、いつも和やかな雰囲気です。また、留学生への対応が手厚いことも良かった点の一つです。生活のことや授業のことなど、なにかあればすぐに助けて下さります。そして、Conversation Partner Program など、留学生が現地で充実した生活が送れるように考えられた制度やイベントもたくさん提供して下さいます。悪かった点は、日本人留学生が多かったことです。不安な時お互い支えあえるという点では良いですが、日本人だけで群れてしまうと英語を使う機会も少なくなってしまうと思います。良い距離を保つことが大切だと思います。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必須です。大学には図書館などに学生が自由に使えるパソコンがありますが、日本語入力が出来ないので、日本の大学と連絡を取る際に困ります。また、キャンパス内はどこでも Wi-Fi が使えるので、パソコンを持ち運び好きな所で課題などが出来る点でも良いと思います。基本的な日常用品は、現地で揃えることが出来ます。特に、シャンプーやリンス、化粧水などは値段は少し高いですが日本製の物も買うことが出来るので特にこだわらなければ現地で購入することをおすすめします。生理用品は、アメリカの物はサイズや質感が合わないと聞いていたので、日本から持って行きました。実際、現地の物は大きくて使いにくかったので、持って行って正解だったと思います。薬に関しても日本から持っていくことをおすすめします。アメリカでも買うことは出来ますが、薬が必要な時は体調が悪く自

分で薬局まで行って購入するのは大変なので、手元にあると便利で安心だと思います。また、アメリカの薬は日本の物よりもきつく、飲むと眠くなるものが多いので、その点でも日本から持参することをおすすめします。衣服は、日本の服の方が質が良く、値段も安いので、ある程度は日本から持っていくのが良いと思います。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学をして良かったと思う大きな理由として、まず一つ目に視野が広がり考え方が大きく変わったことです。留学前は自分の長所に自信を持つことが出来ても、短所には向き合おうとせず、すぐに他人と自分を比べてしまう癖がありました。ですが、留学中自分自身としっかりと向き合い、自分の良いところも悪いところも含めての自分なのだと認めることができ、自信を持つことが出来ました。そう出来たのは、現地の自由で個性あふれた学生と過ごしたり、先生方が自分は短所だと感じていた部分をプラスにとらえて下さったりしたお陰です。そして二つ目に、新しいことに興味を持てたことです。留学中、授業や日常生活でアメリカならではの考え方や文化、社会問題に触れてきました。その多くが今まで全く知らなかったことばかりで、刺激を受けもっと知りたいと思うようになりました。そして、4 回生からは自分が新しく興味を持った人種差別について学ぶことのできるゼミへの所属が決まりました。留学中に得た経験や知識を留学後も活かすことが出来るのがとても嬉しいです。そして最後に語学力についてですが、私は留学中自分の英語力が上がっているのかあまり分かりませんでした。ですが、帰国後 IELTS の試験を受けた時、留学前と後でテストの手ごたえが全く違い、実際スコアも伸びていて、そこで語学力が向上したことを実感することが出来ました。一番スコアが伸びたのは苦手意識があった Writing で、留学中に頑張ったことの一つだったのですごく嬉しかったです。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私は心の底から Chatham 大学に留学して良かったと思っています。Chatham 大学に留学したからこそ出会えた人達、学べたこと、成長できた自分がいるからです。なので、今留学を目指している方は是非それを現実にして欲しいと思います。テストや選考は大変ですが、今の努力は必ず留学で役に立つと思うので、根気強く頑張ってください。そして、留学中は自分の中で作った型に自分をはめ込みすぎず、柔軟な心を持って沢山のことを吸収してきて欲しいです。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

新しいことに挑戦し続けることが目標です。4 回生からはゼミや Shakespeare Production

が始まるので、まずはそこを頑張りたいです。将来の夢は明確には決まっていますが、留学を含めて大学生活で得た知識や能力を活かすことの出来る職に就きたいです。

V. 写真



一番仲の良かった友人です。私が日本のテラスハウスというドラマをお勧めすると彼女がそれにはまってしまい、よく部屋で一緒に鑑賞会をしました。また、私達は共通点が多く、考え方も似ていたので、話を始めるといつも止まらなくなっていました。私が日本に帰国する際は、「私達は絶対またどこかで会えるから、ここで悲しむ必要ないからね」と送り出してくれとても嬉しかったです。



Conversation Partner Program のパートナーです。いつも明るくフレンドリーで、彼女の笑顔を見るといつも元気になっていました。誰にでも態度を変えず、優しい彼女からは学ぶものがたくさんあり、私もこんな人になりたいと尊敬できる友人です。



私が仲良くしていた友人たちです。左から 2 番目の子は私のルームメイトで、私達の部屋にみんなを呼んで集まっていました。この写真は、私がみんなと会える最後の日で、ショッピングに行った後、部屋でパーティーをし、写真を沢山撮りました。



学校で行われたドラァグクイーンショーで、本物のパフォーマンスを間近で見ることが出来ました。ドラァグクイーンの方達はみんな本当に美しく、パフォーマンスも迫力があり本当にすごかったです。



ジェンダー学の先生と最後のミーティングで撮った写真です。ミーティングでは、先生がミシェル・オバマの本をプレゼントして下さいました。授業はとても大変でしたが、本当に有意義な時間を過ごすことが出来ました。いつも私の意見を尊重して下さい、日本人留学生の私から学べることがあるから先生にとっても貴重な時間になると言って、快くミーティングもして下さい、本当に有り難かったです。